



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

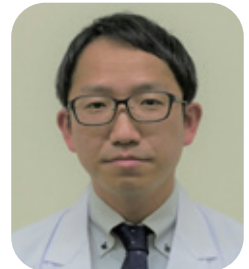
ホームページ <https://www.tmg Hig.jp/>

第170号 (令和5年7月号)

呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科 専門部長(診療科長) **土屋 武弘** つちや たけひろ

本年4月より東京都健康長寿医療センター呼吸器外科に赴任いたしました土屋武弘と申します。「呼吸器外科」はなかなか聞きなれない診療科かと思われる。今回、紙面にてその役割を少しでもご説明でき、今後何かあった際のお力になればと思います。



呼吸器外科 部長 **安楽 真樹** あんらく まさき

この4月より当科に赴任しております。以前にもこちらで勤務しておりましたので、再び当センターで診療に携われることをうれしく思っております。我々の専門とする「肺」は、日常生活の質にも大きく影響を与える大切な臓器の一つです。できるだけ肺の働きを損なわずに、適切な治療が進められるよう、慎重に検討してまいります。



また、ここ数年に及んだコロナ禍の期間には、心臓血管外科、集中治療室とチームを作って重症コロナ肺炎の治療(人工呼吸器やエクモを用いた治療)を引き受けてまいりました。これからも「肺」の専門性を生かして、お役に立てればと思っています。

呼吸器外科

呼吸器外科では、肺、縦隔・胸膜・胸壁などの病気の診断・治療(手術)を行っています。疾患としては肺腫瘍(肺がん・転移性肺腫瘍・良性肺腫瘍など)、縦隔腫瘍(胸腺腫・胸腺がんなど)、胸壁・胸膜腫瘍などの腫瘍性病変や気胸・膿胸などといった良性疾患に対応しています(図1)。診断のための検査方法として、胸部CT、MRI、PET-CT、気管支鏡が一般的であり、当院で行うことができます。手術を必要としない方には、呼吸器内科・放射線治療部と連携し、患者さん一人一人に合った医療を検討しています。今回は、特に肺がんのお話をいたします。

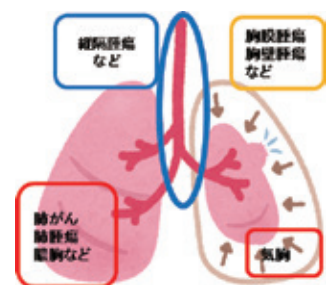


図1

肺がん

現在、生涯で「がん」となるのは約2人に1人とされています。「人生100年時代」が掲げられる中で、「早くみつける」「早く対処する」ことが重要であり、定期的な検診による早期発見や、迅速な対応による早期治療が望まれます。

肺がんをみつける

肺がんは多くの場合、検診によるレントゲンの異常で指摘されます。その後、速やかに総合病院へ紹介となり、精密検査を行うこととなります。当院でも積極的に受け付けており、受診後は速やかに精密検査に移行し、胸部 CT などをおこなっています。

受診された際、外来でよく「咳もないのに」「血も出ていないのに」といったお話をお聞きします。肺がんの多くは無症状であり、症状が出て受診される方は多くありません。早期発見としては区やクリニック等の検診を定期的に受けることが推奨されます。

肺がんが疑われたら

肺の腫瘍を認め、改めて肺がんが疑われる場合、治療を行う前に更にいくつかの検査を行います。他の内臓に転移しておらず（遠隔転移）、また肺外へのリンパ節に転移がないことを確認出来た場合に手術をお勧めします。そうでない場合、治療としては全身治療となる抗がん剤の方がより効果を発揮できる可能性があるため全身治療を推奨します。また、手術前の呼吸機能検査や、心エコー検査により手術を安全に行うことが可能であるか確認します。不適切な手術の適応はいたずらに体力を奪う可能性があります。手術はあくまで「取り切れる」、かつ「手術後に日常生活を自分で行うことができる」と判断した際に選択されます。

手術方法

当院では、基本的に「内視鏡手術：胸腔鏡手術^{きょうくうきょうじゅつ}」を行っており（図 2）、疾患の進行具合に合わせて適宜「開胸手術^{かいきゅうじゅつ}」を行っています。内視鏡手術：創部は 1cm 前後を 2-3 個、3-5cm 前後を 1 個、計 3-4 個の創部で行います（図 3・4）。

開胸手術：10-15cm 前後の創部で手術を行います。

肋骨や筋肉は適宜切除・温存します。



図 2

入院期間

入院は手術の 1～3 日前にさせていただきます。手術後は 7～10 日程度で退院可能な状態となりますが、人によって経過は異なります。退院日は患者さん、御家族と相談して決定していきます。必要な方には、リハビリをしてから自宅に戻っていただくように計画をします。



図 3



図 4

健康長寿医療センターにおける呼吸器外科の特徴

他の病院と比較して、当院は比較的に高齢の患者さんが多く、その特徴として手術をされる多くの方に「心臓の病気」や「腎臓の病気」、「糖尿病」など様々な病気を合併していることが挙げられます。当院では病院全体が高齢者の治療に特化しており、そうした病院ならではの特徴を生かし、他科と連携し手術前後の体調管理を行います。また、治療方法としては「なるべく負担の少ない手術」として内視鏡手術（胸腔鏡手術）を積極的に行いながら、早期退院できるようご協力いたします。

また、肺がんのみでなく、10～20 歳代の若年者の気胸等にも適宜対応しております。ご年齢に関係なく疑問に思うこと、お聞きになりたいこと、気になることがある際、お気軽にご相談ください。

がん相談支援センターだより

～がんにつながるいろいろな悩みにお答えします～

「がん相談支援センター」ではがんにつながる不安や心配事に、各種専門職が知識を生かして相談活動を行っています。今回は活動の一つである、「おれんじの会」についてご紹介させていただきます。

「おれんじの会」とはがんを患っていらっしゃる患者本人と家族の方々の患者・家族会です。コロナ渦となりここ2年間は開催することが出来ませんでした。昨年度ようやく開催することが出来ました。

「おれんじの会」は、講義・茶話会形式で構成されています。今回は3月15日（金）に開催された「おれんじの会」について報告させていただきます。

当日は院内・院外患者8名、家族1名の合計9名の参加者に集まっていただき、がん相談支援センター長時村副院長から開催の挨拶で始まりました。

前半の講義ではがん化学療法認定看護師、内藤看護師より「爪のケア実践編」と題して講演及び爪ヤスリを使用した実践を、参加者、職員と一緒に爪の手入れを行いました。なるべく爪切りを使わず爪ヤスリを使用した方がよいことや、保護液などを塗布した方がよいこと、除光液などはなるべく使用しない方がよいなどの話がありました。

後半の茶話会は、参加者同士や職員と自由に話しができる場としました。日常生活の悩みや治療をしながらどのように生活を送っているかなど話題が出て、当事者同士だからこそわかり合える話しをされていました。

最後にがん相談支援センター副センター長太田看護部長より閉会の挨拶にて終了となりました。約1時間の予定でしたが参加者同士の話や職員との話が尽きませんでした。

参加者の方々からは、治療の副作用などで爪が割れてしまっていた。爪は隠すことが出来ない場所なのでいつも気にしていた。手入れをどうしたら良いのかわからなかった。今日話を聞いて実際手入れをしてみて、自宅でも続けていきたいと感想をいただきました。

私たちも患者さん達が身近な事で悩まれていることを改めて実感しました。

「おれんじの会」で取り上げて欲しいテーマなどあれば遠慮なく、がん相談支援センターまでご連絡ください。



お問い合わせ先

がん相談支援センター（1階8番窓口）

☎ 03-3964-5946

専門看護師・認定看護師のご紹介

看護部

当センターでは、特定の看護分野において、専門性の高い知識や技術を身につけた専門看護師・認定看護師を積極的に養成しています。

患者さん・ご家族によりよい看護を提供できるよう、看護分野ごとの専門性を発揮しながら、看護の質向上に努めています。

老人看護専門看護師

高齢者が住み慣れた場所でいきいきと生活できることを目指して支援しています。そのひとが大事にしてきた暮らしを継続できるようにお困りごとを一緒に考え、解決できるようにサポートしています。

がん看護専門看護師

がん患者さんの様々な苦痛に対し、薬の使用方法や工夫、痛みへのケア、精神的サポートを行います。また、がん患者さんやご家族の抱える痛み、様々な困りごとの問題解決を図れるようにサポートしています。

がん性疼痛看護認定看護師

がんや非がん患者の痛みや辛い症状、苦しみを和らげるために医師や様々な職種とチームを組み、サポートしています。

感染管理認定看護師

医療施設内での感染症対策を担当し、問題の解決や教育を行っています。



緩和ケア認定看護師



がん、非がん問わず、ご本人とご家族に寄り添い「その人らしい生活」を安楽に大切にすごせるようケアを一緒に考え、サポートしています。

がん化学療法認定看護師

がん患者さんが化学療法を行いながら、その人らしく生活ができるようにサポートします。がん相談支援センターでは、治療内容や副作用の対応方法についての相談も受け付けています。

慢性心不全看護認定看護師

生活の気付きや大切にしている過ごし方を教えてもらい、ご本人やご家族の思いに寄り添い、心不全予防や療養生活、意思決定のサポートを一緒に考えサポートをしています。

認知症看護認定看護師

認知症をもつご本人とご家族に対して安心して治療やケアが受けられるように医師をはじめとしたチームと一緒にサポートをしています。また、認知症に関してのお困りごとについて、ご本人やご家族からのご相談にも応じています。

皮膚・排泄ケア認定看護師

皮膚のケアや排泄（人工肛門：ストマやおむつ）に関わるケアを専門としています。病棟での皮膚の状態をみて、より良いケアが行えるようにしています。

糖尿病看護認定看護師

糖尿病患者の治療や生活面でのサポートを行い、血糖管理や合併症予防、インスリンポンプなどの機器管理、フットケアなどお困りごとの相談をお受けします。糖尿病外来・看護外来でもご相談ください。

クリティカルケア認定看護師

重症患者の初期対応や全身の状態を見てより良い治療が受けられるように活動しています。また、突然の入院でご家族の抱える痛みや様々な困りごとに対してご本人とご家族も一緒にサポートしています。

慢性呼吸器疾患看護認定看護師

慢性呼吸器疾患患者のケアを専門とし、ご本人とご家族の QOL 向上において「その人らしさ」を大切にしたいケアと一緒に考えます。病気と付き合い、希望した場所で少しでも長く安心して生活が送れるようにサポートをしています。

摂食嚥下障害看護認定看護師

食事や嚥下（飲み込み）に困りごとのある患者さんのケアを専門としています。嚥下（飲み込み）の状態を医師やいろいろな職種と一緒に見て、リハビリテーションや食事の方法を考えサポートしています。

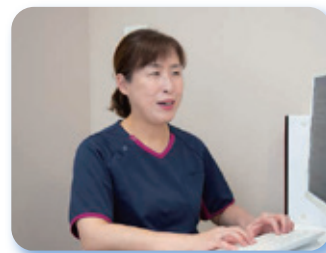
脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師

脳卒中患者のリハビリテーションやご本人、ご家族に寄り添い、希望に沿った生活が送れるような工夫や方法を一緒に考え、サポートをしています。

これらの専門看護師・認定看護師は、それぞれの専門領域で患者やその家族のケアを提供し、専門的な知識とスキルを活用して問題解決に取り組みます。

また、入院中だけでなく退院後も看護外来や訪問看護師や施設とともにケアを継続できるようにサポートしています。

お困りごとや相談がある場合は、気軽に連絡することができます。フレイルに関する質問やご相談も受けています。



皆様からのご意見にお答えします



- 16番で採尿を失敗してしまう患者さんは少ないと思いますが、その場合に13番にある自販機の「冷水」をコップ一杯ほど飲んで尿を出すように促されます。ところがその「冷水」はご高齢の方にとっては冷た過ぎて喉を通っていかないと困っている方を数回見ました。気づきにくい事なのですが、水温を改善することは出来ないでしょうか。
- ご意見をいただきありがとうございます。いただいたご意見をもとに、当該自販機の水温につきましては、「常温」に変更いたしました。今後も皆様にご利用いただきやすいよう、努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- 採血の時は冷やしてから打ってくれてありがとうございました。みなさん穏やかだったので緊張することなくいられました。
- この度は感謝のお言葉をいただき、誠にありがとうございます。お言葉を励みに、今後も質の高い医療を目指して努力してまいります。

第165回老年学・老年医学公開講座

老いを目指し 老いを見据える

老いを考える WEEK



※東京都健康長寿医療センター研究所では、都民の皆さまとともに老化について考えることを目的に、令和5年7月を『老いを考える WEEK』としてオンライン講演を実施いたします。

視聴方法

以下のURLもしくは二次元バーコードよりアクセスしてください。
(視聴無料・申込不要)
<https://www.tmgchig.jp/research/lecture/gerontology/>

